

2021年度堺第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

昨年 陽田町会の駅前団地の実態調査を実施。調査の結果、地形が急坂ということが影響し買い物や通院のしにくさを訴え外出の頻度が週 1 回以下という回答や地域のつながりが少ないという回答がそれぞれ 3 割を占めた。また、調査時、コロナウイルス感染を気にし、対面で話すことを拒まれた方も多く、コロナ禍という状況がさらに引きこもりや人とコミュニケーションをとらなくなることを助長し、フレイルのリスクを高めていることも実感した。コロナ禍のコミュニケーションをとるツールとしてスマートフォンの活用が一つの手段となるが、活用できていないという回答も多かったことから、スマートフォン講座も並行しながら、フレイル予防に取り組む必要がある。

【現状と課題②】

武蔵岡アパート(武蔵岡団地)は全戸数 787 戸のうち 518 戸に高齢者が住み、このうち 262 戸が独居高齢者となっている。2020 年度の総合相談のうち、およそ 40%が武蔵岡アパートの高齢者からの相談であり、内容としては、精神疾患(統合失調症・アルコール依存症など)、老々介護、8050 問題、認知症、権利擁護、生活支援と多岐にわたった。又、これらの問題は単発ではなく重複して起こっていることが多い。問題解決のためには一方向からだけの支援では一時的には解決したように見えても根本的な解決には至らないことが多い。したがって、包括的に支えられるセーフティネット的な仕組み作りを長期的に行う必要がある。

【現状と課題③】

2019 年度 2020 年度と継続して相原町のケアマネジャー・地域の住民からの相談の中で精神障害者との関わりに関する相談が多かった。医療に繋がっていないケースもある中、2020 年度は相談内容から課題を抽出し、課題解決に向けた仕組みを構築すべく、地域ケア推進会議を開催。参加者に現状把握と課題共有を図った。その会議では「多職種で連携して支援出来る仕組みがほしい」という意見が最も多く、その仕組みづくりについて検討していく必要があると考えている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		地域のつながりを深めるための検討会の開催	
計 画	目標		
	駅前団地の住民と地域の通い場の立ち上げ		
	2021年度の取組		
	「通い場の立ち上げ」に向け、昨年度の実態調査で立ち上げの意向があった駅前団地の住民とともに地域のつながりを深めるための検討会を開催する。 通い場以外にも、「ちょこっとお手伝い」などの生活支援の必要性について言及する住民もいるため、まずは「通い場の立ち上げ」に優先的に取り組み、他の課題については、住民の意向に沿って順番に課題解決に取り組んでいく。 又、近隣の大学にも協力をいただいて、スマートフォン講座を開催予定。		
	活動指標		
	①「地域のつながりを深めるための検討会」の開催数 ②スマートフォン講座の開催数		
	目標値	①2 回以上 ②1 回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名②		武蔵岡アパートの高齢者が安心して生活するための仕組み作り	
計 画	目標		
	見守りが出来る活動団体の立ち上げ		
	2021年度の取組		
	①昨年度、「町トレを立ち上げたい」と希望された健康づくり推進員と共に町トレを立ち上げる。立ち上げた際には見守りの目を養えるように認知症サポーター養成講座と見守りミニ講座を開催する。		
	②移動支援に協力したいと手挙げしてくれた福祉事業所・自治会と共に買い物支援に関するささえ合い連絡会を開催する。		
	③支援センターと顔の見える関係づくり・相談できる環境づくりを継続して行う。昨年度に引き続き、「介護と医療の相談会・あんしんキーホルダー登録会」を開催し、又、武蔵岡アパートの住民が主体となった地域ケア会議の中で一昨年から取り組んでいた終活ノートの広報支援や消費者被害予防講座を開催していく。		
	活動指標		
①立ち上げた団体を対象とした認知症サポーター養成講座・見守り啓発ミニ講座の開催数 ②買い物支援に関するささえあい連絡会の開催数 ③-1「介護と医療の相談会」の開催数 ③-2 終活ノートの広報支援 ③-3 消費者被害予防講座開催数			
	目標値	①各 1 回 ②1回 ③-1 1 回 ③-2 チラシを 700 部配布 ③-3 1 回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
績	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③		心の病を抱える高齢者を支える仕組みづくり	
計 画	目標		
	精神疾患を患っている高齢者を地域の精神科、相原町のケアマネジャーや訪問看護等で連携して支援するための仕組みづくり		
	2021年度の実施		
	適切に医療に繋がっていないケースなど、精神疾患を患っている高齢者を、地域の専門職が連携して支援する仕組みづくりのため、相原町及びその周辺地域の精神科と相原町のケアマネジャー・精神疾患を患っている高齢者を支援している事業所（訪問看護事業所など）とで具体策を検討する会議を開催する。		
	活動指標		
	精神科と相原町のケアマネジャー・地域の事業所と地域ケア推進会議の開催数		
	目標値	2回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	（目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。）		
	2022年度に向けた課題		
（2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。）			

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数(企画会を除く)	2	回
検討する課題(決まっている場合のみ)		
・心の病を抱える高齢者を支える仕組み作り		

4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2021年度堺第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

これまで支援センターの情報発信は、広報紙を作成し、回覧板で周知するというのが主軸となっていた。しかし「コロナ禍」の下、上小山田・小山ともに町内会・自治会の定例会が中止となっていたり、回覧板の使用が縮小されたりと、2020年度は支援センターの周知活動が滞ってしまっている。

加えて、小山においては、小山連合から脱退している町内会・自治会や、自治会組織を持たないマンションなどが増えており、小山連合での一斉周知・回覧では、そもそも小山全域をカバーできない状況にある。様々な世代に向け、多様なツールを使用しての情報発信に取り組む必要が出てきている。

【現状と課題②】

2020年度は新型コロナの感染拡大予防のため、自主グループ活動等の地域活動や、サロン・認知症カフェ等の集いの場の多くが、活動を中止せざるを得ない状況であった。長きにわたる「自粛」のもとで、フレイルや認知症が着実に進行している。また、通常であれば、これらの地域活動や集いの場の中で、自然に行われていた「見守り」が衰退しているため、フレイルや認知症の早期発見ができにくくなってきており、悪循環をきたしている。

加えて、エリア全体(特に小山ヶ丘)は生産年齢人口が高い傾向があり、その親世代の高齢化が進行している。一人暮らしが困難になった親の呼び寄せが急増しており、結果として、地縁の薄い虚弱高齢者が増えている。情勢にあった「見守り」や「対象者把握」についての検討が必要となってきている。

【現状と課題③】

2020年度は「自粛」の期間が長く、閉塞された空間での生活の下、虐待が多く発生していた。(平成26～令和1年までの平均報告数 1.8 件の 5 倍。)虐待者・被虐待者ともに、精神疾患(発達障害含む)を抱えた人が増えており、病院・保健所・障がい者支援センター・警察等との連携が、より一層必要になってきている。特に子や孫の世代が虐待者である場合、虐待者支援も早急に必要となるケースが増えているが、18歳から64歳までの年代に「総合相談窓口」が存在しない中、多機関での連携が鍵となっている。そのためにはふだんからの、「相談しやすい関係づくり」が重要である。

現在、「関係づくり」の場として、「町田西地域情報交換会」を月に1回開催しており、障がい者支援センター、引きこもりの若者支援をしている NPO、訪問看護ステーションとは関係構築ができています。連携機関を増やし、この場を有効に活用していきたい。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		多様なツールでの情報発信の推進	
計 画	目標		
	幅広い年代の地域の方々が支援センターからの情報を容易に入手できるようにし、困った時に早期に相談できるようにする。		
	2021年度の取組		
	後期高齢者は、チラシや口コミが有力な情報源となるため、従来から行っている紙ベースでの発信は継続していく。回覧・掲示板のほか、チラシを置いていただける店舗等を拡大することにより、多くの方の目に留まるようにしていく。		
	前期高齢者や、介護世代である40～50歳代の方に対しては、ネットやSNSも活用して、よりスムーズに情報が得られるように体制を整えていく。支援センターのホームページの内容を充実することと合わせ、SNSを使った周知方法についても検討し、様々な媒体からの情報取得が可能となるように取り組んでいきたい。また、ネット・SNSを活用できる高齢者を増やしていくため、センター事業の中でネット・SNS等の「活用講座」の開催も試みていく。		
	活動指標		
	新規にチラシを置いていただける店舗(もしくは拠点)等の数 ネット・SNS等の「活用講座」開催数		
	目標値	3 店舗(もしくは拠点)、活用講座開催 1 回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名②		地域の情勢にあった見守り活動の推進	
計 画	目標		
	見守りネットワークがない地区や、民生委員不在地区の、高齢者見守り活動の補完体制を整えていき、「社会的行方不明者」を早期に発見し、つながりを作る。		
	2021年度の取組		
	見守りネットワークがなく、民生委員不在でもある、小山ヶ丘のマンションの一人暮らし高齢者について、アウトリーチの方法を検討し、支援センターによる積極的・継続的な見守りが必要な、対象者の把握に取り組む。		
	地域住民の見守り意識の向上を目的として、自主グループ等に対し、見守り普及啓発ミニ講座受講についてアプローチする。見守りネットワークがなく、かつ民生委員不在の地区(中村町内会など)に対し、重点的に声をかけていく。		
	また、今年度は、市から提供される、「健診サービス未利用者」の名簿に上がった方に対し、戸別訪問を行っていく。それにより、フレイルや認知症のリスクのある方の、早期発見・早期対応に努めたい。		
	活動指標		
	アプローチをしたマンションの棟数 見守り普及啓発ミニ講座をアプローチしたグループ数 名簿による戸別訪問を行った数		
	目標値	マンション 1 棟以上、1 グループ以上、個別訪問 30 件	
実 績		実績値	
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③		部門を超えた「横割り」の関係づくりの促進	
計 画	目標		
	部門を超えた関係づくりを強め、高齢者支援だけでは解決しない問題(精神疾患、障がい、同居家族の問題等)について、協働しやすい素地を形成していく。		
	2021年度の取組		
	2019年より立ち上げた、町田西地域情報交換会を毎月開催し、部門を超えた情報交換の機会を定期的に確保していく。必要に応じて、勉強会や事例検討会なども開催し、協働についての振り返りや意見交換を行えるように図っていく。現在の主たるメンバーは、高齢・障がい・引きこもり・医療サービス事業所であるが、もっと多様な機関・人にも声かけしていき、参加を促していく。		
	2019年より、引きこもりの若者支援を行う NPO 法人を中心に、地域の支えあい活動を行う、「わらしべワークプロジェクト」がスタートしており、立ち上がりから関わっている。今後も活動を通して、地域の関係団体(子どもや若者の支援者、社会福祉協議会等)との関係づくりを深めていく。		
	活動指標		
	町田西地域情報交換会に新規で参加した機関(もしくは個人)の数 わらしべワークプロジェクト実行委員会出席数		
		目標値	新規参加機関数1件以上、出席数10回以上
実 績		実績値	
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数(企画会を除く)	回
検討する課題(決まっている場合のみ)	

4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

--

2021 年度忠生第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

忠生地区は、団地やアパートに住んでいる高齢者や単身者が多く、地域の繋がりが希薄で、閉じこもりのリスクが高い高齢者が潜在的に多く、元気だった住人ほど、孤独死で発見されることが多い。

このような背景から、これまで忠生地区の町内会自治会、管理組合などに見守り支援ネットワーク立ち上げ支援を行ってきたが、見守り支援ネットワーク立ち上げには至らなかった。

そのため、支援対象者の早期発見につながるように町内会自治会だけではなく、町トレなど自主グループや民間事業者と地域住民のネットワーク構築が必要である。

【現状と課題②】

高齢化率の最も高い小山田桜台は認知症の発症、進行、身体機能の低下により、要介護認定者が急増していることから、団地での暮らしが困難となる方の増加が予想される。

既に、孤独死や要介護状態となることを防ぐため、住民独自の助け合い活動や見守りを始める団体が増えている。

しかし、今まで以上に、地域の中で気軽に相談でき、必要な際には支援センターへ繋がるように、地域住民、ボランティア団体事業所と連携を図り、日常的な支援体制を構築、強化する必要がある。

【現状と課題③】

高齢化が進み、慢性的な疾患を持つ認知症高齢者の一人暮らしや同居家族に精神疾患があるなど多様な生活課題を抱えている高齢者が増えている。

個別ケースの検討を通して、課題として「8050 問題」「閉じこもりの家族」などがあげられる。そのような課題を抱える方が、できる限り住み慣れた地域での生活を継続できるよう、医療と介護の連携をはじめ、多職種協働で地域支援体制を充実させる必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		忠生地区への見守り支援ネットワーク普及活動	
計 画	目標		
		忠生地区の町内会自治会や自主グループ、民間事業者（不動産屋、農協、コンビニ、新聞配達等）へ地域の高齢者の実情を伝え、見守りについての普及啓発を行う。	
	2021年度の取組		
		・忠生地区の町内会自治会、民間事業者へ地域の実情を伝え見守り普及啓発講座開催へと働きかける。 ・支援センター内で担当を決め、忠生地区内の75歳以上、介護未認定、未受診の方の戸別訪問を実施する。	
	活動指標		
		① 齢者見守り活動普及啓発講座（レギュラー・ミニ講座合わせた）の開催数 ② 介護未認定、未受診の後期高齢者の訪問実績数	
実 績	目標値	① 2 回	② 全件
	実績値	①	② 人
	2021 年度の成果		
	2022 年度に向けた課題		

取組名②		高齢化の進む地域への介護予防や認知症の理解、促進の普及啓発		
計 画	目 標			
	小山田桜台地区を中心に高齢者自身の自立への取り組みや、住民が共に支え合うための地域コミュニティづくりを目指す。			
	2021 年度の取組			
	・小山田桜台地区での自治会、関係団体と連携し、介護予防に関する相談を含めた出張相談会の開催 ・小山田桜台地区での自治会、関係団体と連携し情報交換や課題共有の場の継続 ・エリア内の中学校で認知症サポーター養成講座を開催する			
	活動指標			
	① 出張相談会の開催数 ② 地域ケア推進会議(地域支え合い連絡会)の開催数 ③ 認知症サポーター養成講座の開催数			
	目 標 値	① 6 回 ② 6 回 ③ 3 回		
実 績	実 績 値	① ②		
	2021年度の成果			
	2022年度に向けた課題			

取組名③		多職種協働で地域支援体制を充実させ、地域包括ケアを推進していく	
計 画	目標		
	医療と介護関係者に留まらず、障がい者支援センター等と連携し、包括的に支援するネットワークづくりと意識を共有するために地域ケア推進会議を開催する。		
	2021の取組		
	・医療と介護の連携支援センター等と協働し、地域のケアマネジャーやサービス事業所や地域などを対象に、医師や医療の専門職に講師を依頼し、地域ケア推進会議を開催する。コロナ禍で外出の機会が減り、介護が必要となる一歩手前の「フレイル」に陥る高齢者が増加していることを、忠生地区の課題と捉え、様々な支援者の意見をとりいれ、地域でどう解決していくかを明確にしていく。		
	・圏域での研修会（地域共生社会に向けた多職種連携について）開催やエリア内の居宅介護支援事業所を対象とした勉強会（内容については検討中）を開催する。		
	・高齢者支援センターの日頃の相談から「8050 問題」「9060 問題」に関わる相談内容を把握するとともに、課題分析する。		
	活動指標		
ネットワーク構築を目的とした地域ケア推進会議開催数			
	目標値	3 回	
実 績	実績値	回	
	2021 年度の成果		
	2022年度に向けた課題		

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021 年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数(企画会を除く)	6 回
検討する課題(決まっている場合のみ)	
・小山田桜台における居場所作り・生活支援活動に向けた情報交換 ・権利擁護の支援が必要なケースが増えていることから居宅介護支援事業所に向けて成年後見制度の申し立てについての検討。 ・8050問題の相談件数が増加していることから、障がい支援センターと定期的に情報交換の機会をもつ。	

4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2021 年度忠生第 2 高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

地域住民の高齢化にともない、特に 8050 問題を含んだケースの相談件数が増加している。親の高齢化による体力および認知機能の低下の問題だけでなく、子どもの問題（長期ひきこもり・精神疾患等）や、子どもによる経済的搾取を中心とした虐待ケースが発生して問題がより複雑化している。これまで子どもへの支援が高齢者支援センターの範疇ではなかったこともあり、エアポケットな状態である。今後の課題として、同じ悩みを持つ当事者同士で交流する場を作ったり、子どもへの支援体制の構築、また当事者だけではなく、地域住民への「8050」問題に対して、差別のない自分事としての理解促進も課題になっている。

【現状と課題②】

JAGES によると、忠生第 2 エリアは独居者割合、孤食者割合、低所得者割合、家族を介護している人の割合が市内では突出して高い。困った時に相談する人がいない、公的な相談機関を知らないという人が多いと思われ、支援センターが関わる時には課題が複合的になっており、適切な医療や介護、生活支援につなぐまでに時間を要することが増えている。自分や家族だけで課題を解決することが困難な方も、権利が護られ文化的な生活を送ることができるよう、住民に地域の課題を知ってもらい一緒に考えていく必要がある。また、町内会・自治会加入率は市内で一番高いものの、連帯感を感じる割合は市内で一番低い。町内会・自治会の活性化を図る必要がある。

【現状と課題③】

山崎町、木曽東にある団地は築 50 年以上が経過しており、いずれの団地も高齢化率が 50%に迫っている。また高齢者のみ世帯、単身世帯が増えている。KDBデーターによると、要介護者の有病状況では①心臓病(59.2%)②筋・骨疾患(51.8%)③精神疾患(37.1%)④糖尿病(23.4%)となっており、精神疾患を持つ住民が多く、喫煙率や飲酒率も高くなっている。令和元年後期高齢者医療加入者データーによると健診、病院未受診者割合、介護認定なし、介護給付なしの割合が 7.1 と 12 センター中一番高い。日常業務の中では、親族との繋がりがなく、経済的に困窮している未受診者への受診同行が増えている。また近隣住民からの安否確認が頻繁に入り、孤独死に至るケースもある。見守り機能を備えた自主グループ活動の立ち上げや、既存のグループへの支援の必要性が高い。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		8050 世帯を孤立させない町づくり。	
計 画	目標		
	8050 世帯を孤立させない町づくりを実現化していくために、関係機関との連携強化と、当事者の声を聴き、同時に地域住民に向けて理解を広げていく。		
	2021年度取組		
	① 8050 問題から見える課題に対して関係各機関と定期的な情報交換会を開催して情報共有を図る。		
	② 経済的に依存せざるを得ない生きづらさを抱えた中高年と暮らす親を対象に、語らいの場を今後も継続していく。		
	③ 地域住民に向けて理解を促すため、「8050 問題」が地域の身近な問題であることを知り、差別・偏見のない自分事の問題であることを語り合う「場」(老人会・サロン等)を設ける。		
	活動指標		
	① 関係機関との「情報交換会」 ② 「親の声を聴く会」 ③ 「地域住民向け 語らいの場」		
	目標値	① 年3回 ②年 4 回③年 1 回～2 回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名②		住民の幸福感が上がり、生活しやすい地域の基盤づくり。	
計 画	目標		
	誰でも困りごとが大きくならないうちに相談することができ、衣食住に困ることなく、生活を送ることができるよう、セーフティネットの仕組みを地域の人とともに考える。		
	2021年度を取組		
	① 生活状況が悪化してから相談するのではなく、困った時にどのような制度が利用できるのかを地域住民に周知し、「備え（見守りなど）」を皆で考える場を作る。		
	② 地域住民が気軽に集うことができる拠点を確保し、支援センターから遠い場所に住んでいる人も相談できる環境を作る。		
	③ 町内会・自治会内で見守り体制が構築できるよう、見守り講座を開催する。		
	活動指標		
① 「備え」について考える場を持つ。			
② 出張相談会の開催。			
③ 見守り講座の開催。			
	目標値	① 年3回 ② 年3回 ③年1回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	（目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。）		
	2022年度に向けた課題		
	（2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。）		

取組名③		通いの場づくり、健康や介護予防普及啓発。自主グループ内での支えあい支援。	
計 画	目標		
	① 健康づくりのための生活習慣の見直しや介護予防の必要性を理解する場を提供する。		
	② 自主グループ活動再開への支援を行い、メンバーが戻って来られるように支援を行う。		
	③ 住民が気軽に通える多様性のある通いの場づくりを行う。		
	2021年度の取組		
	① 健康・介護予防の普及啓発		
	・フレイルチェック会・介護予防月間地域型イベント・歯科講座の開催・介護予防啓発講座の実施		
	・困ってしまう前の段階で行えることを相談できるコーナー作り、お便り、ポスターなどでの啓発活動を行う。		
	② 自主グループ内での支えあい支援		
	・グループの活動状況の確認、活動時に注意する内容を載せたチラシの作成。		
・自主グループのメンバーが認知症になっても活動を続けられるような支援を行うために、認知症サポーター養成講座、見守り講座の案内や実施を行う。			
・グループメール登録の推進			
・自主グループ情報交換会の開催			
③ 住民主体の通いの場づくりを住民になげかけていく			
・特に男性が通える場を増やす。			
・要支援、フレイル、認知症の方でも受け入れられる仕組みづくりを提案する。			
・地域住民の知恵や経験を活かした交流の場の企画・案内を行う。			
・資源マップの情報提供。			
活動指標			
① 介護予防普及啓発講座数②グループ内交流会数③グループ立ち上げ数			
目標値		① 年2回 ② 年9回 ③年1件	
実績値			
実 績	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		

	2022年度に向けた課題
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数(企画会を除く)	回
検討する課題(決まっている場合のみ)	
複数ある場合は、箇条書きで記載してください。	

4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2021年度鶴川第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

健康長寿医療センター・JAGES 調査データをもとに担当エリアを町別に分析すると小野路町・野津田町は通い場数が他の地域に比べて少なく、スポーツ・趣味の会等への参加が町田市平均を下回っている現状がある。また両町ともに成人健康診査受診率が低い。これは医療機関が少ないことも要因の一つと考えられるが、健康管理や介護予防への意識の低さの表れと言える。この現状の課題解決として住民同士の支え合いを利用した通い場を増やすことや既存団体の継続・再開支援を行うことが必要である。過去3年間で両町に4団体の自主グループ立ち上げ支援を行ったが、コロナの影響で活動縮小や休止しているグループもある。住民が安心して参加できる環境下での通い場立ち上げ・支援に取り組む必要がある。

【現状と課題②】

8050 問題のように高齢者を含む世帯員全員への支援を要する相談対応が増加している。世帯の中で核となっていた高齢者の要介護状態、認知症発症といった課題の発生と同時に、同居家族のひきこもり、経済的困窮、住環境の問題、高齢者への虐待等の課題が浮き彫りになり、高齢分野に加え他分野からの支援が必要となる。高齢者支援センターは社会的孤立事例を発見しやすい立場にあるが、世帯全体の支援を担うことは難しい。多分野の支援機関による連携が必要となるが、高齢分野以外の機関との連携・協働が十分とは言えない現状である。世帯が抱える課題を整理し、より円滑に支援できるよう支援方法等についての検討や地域課題として共有していくための支援機関同士のネットワーク構築を強めていく必要がある。

【現状と課題③】

コロナ禍で地域の見守り体制が十分に発揮できず、近隣・親族からの相談に加えて行政機関や消防・警察等からの安否確認の依頼や緊急連絡先の問い合わせが増えている。認知症高齢者の無断外出、独居世帯での事故死・自然死も増加傾向にある。あんしんキーホルダーは初期対応に必要な情報を高齢者支援センターが把握することができ、登録や扱いも簡易で利用しやすいツールであるが、鶴1エリアでは広報・周知が不十分で保有率がすべての町で高齢者人口比15%以下となっている。今まで行っていた講座・個別相談対応時や広報媒体による普及活動に加え、実態把握訪問やグループ活動、店舗等を利用した出張登録会等、地域に出向いて登録数を増やす新たな取り組みが必要である。また、長期登録者の状況確認も課題となっている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		重点地区である小野路町、野津田町での自主グループの立ち上げ
計 画	目標	介護予防・健康づくりのため、重点地区での通い場の充実を図るための自主グループ立ち上げと、成人健康診査の周知を行う。
	2021年度取組	介護予防や生きがい・健康づくりに地域の身近な場所で行ってみたいという地域ニーズがあるが、小野路町、野津田町は高齢者人口に対しての通い場数が少なく、健康に関しての意識や関心が低い状況であるため、安心して継続参加できる環境での通い場立ち上げ支援を行う。小野路町では、まちだ丘の上病院が運営している「ヨリドコ」を拠点とし、フレイルチェック会、生きる力アップ教室の実施を経て自主グループ立ち上げを目指す。野津田町では野津田あんしん相談室を立ち上げに関する相談拠点とし、自治会や老人会、また介護予防サポーターとの協働により自主グループの立ち上げを目指す。あわせて講座開催時や、前年度の実態把握訪問で不在であったお宅のみを再度訪問し、成人健康診査のパンフレットを配布する。
	活動指標	
		① 小野路町、野津田町での町トレ自主グループ立ち上げ ② 成人健康診査の個別案内
	目標値	① 2 か所 ② 195 件
	実績値	
実 績	2021年度成果	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2022年度に向けた課題	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

取組名②		複合的課題を抱える世帯への包括的な支援体制づくり	
計 画	目標		
	高齢分野だけでは解決が難しい複合的な課題を抱える世帯について多分野の関係機関が協力して対応できるよう、ネットワークの構築を行う。		
	2021年度取組		
	8050 問題のように複合化・複雑化した課題を抱える世帯を包括的に支援するため、鶴川圏域で分野を超えた支援機関との協議体を立ち上げ、包括的な支援をしていくための検討を行う。 具体的には、医療や保健、障がい、子どもといった多分野の関係機関に打診し、鶴川第2高齢者支援センターとの協働にて地域ケア会議として、8050 問題等の地域課題を共有する連携会議を実施する。 また、課題を抱える世帯への具体的な支援方法の検討や支援者のスキルアップを目的とした研修を実施する。		
	活動指標		
	① 多分野の関係機関との連携会議開催 ② 支援に関わる研修会の実施		
	目標値	① 1 回以上 ② 1 回以上	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③		あんしんキーホルダーを活用したセーフティネット機能の強化	
計 画	目標		
	地域の中で安心して暮らすことができるよう、あんしんキーホルダー登録者を増やし、関係機関からの問い合わせに速やかに対応できる体制の強化を行う。		
	2021年度の取り組み		
	あんしんキーホルダーの更なる普及を進める為、広報誌による周知に加え、高齢者支援センター職員が新規ケース面談時や実態把握訪問時に個別に周知していく。またロコミにより周知されることが多く見受けられることから、民生児童委員や地域のケアマネジャーへ周知の協力を依頼する。また、これまで登録会を実施したことのない地域や、エリア内で最も登録率の低い小野路町を対象に、あんしんキーホルダー登録会を実施する。町田市で目標としている新規登録件数(1センター平均 108 件)を上回る登録数を目標に掲げ取り組んでいく。 長期登録者の状況確認については郵送による現状調査等、効率的な実施方法を検討し取り組んでいく。		
	活動指標		
	① あんしんキーホルダー登録件数 ② 新規地区でのあんしんキーホルダー登録会の開催回数		
	目標値	① 10件/月(年間120件) ② 2回	
	実績値		
実 績	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数(企画会を除く)	6 回
検討する課題(決まっている場合のみ)	
複数ある場合は、箇条書きで記載してください。	

4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2021年度鶴川第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

生活を支えていた親世代が認知症を発症したり、要介護状態になったりすることで、これまで福祉的な支援と関わってこなかった世帯で、様々な課題が表面化することが増えている。同居家族の引きこもりや、経済的困窮、世帯構成員への不適切な介護状況など、いわゆる8050問題として町田市全体での課題としても取り上げられているが、高齢分野によるアプローチだけでは、子ども、孫世代など他分野での課題を抱える世帯への課題解決が難しくなっている。

【現状と課題②】

各町内会自治会の加入率減少や役員の高齢化、自主グループの高齢化が進み、世代交代がうまくいかず運営自体が危うくなっている。その結果、多世代交流の場が減少し、互いに見守り、支えあう地域力が低下している。若い世代からは町内会自治会やグループ活動に関心はあるが、参画する機会がないとの声もある。

また、2021年1月現在、鶴2エリアでは、29地区のうち8地区で民生児童委員が欠員、その中でも高齢化率45.56%となっている鶴川5丁目が3地区全て欠員となっている。今後ますます孤立していく人が増えていき、SOSをキャッチできなくなっていく可能性が高い。

【現状と課題③】

三輪地区にて地域住民より認知症高齢者の見守りについて不安があると声が上がっている。

地区内にアパートも多く、単身高齢者も多く居住。

活動拠点となる施設が少ない為、徒歩圏内で参加できる自主活動グループが立ち上がり難しく、古くからの住民と新しく居住し始めた住民との交流の場が少ない等の課題を抱えている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		多問題を抱える世帯に対応できるネットワークづくり	
計 画	目標		
	高齢分野だけでは解決の難しい、8050 問題などの多問題を抱える世帯に対応できる多分野協働でのネットワークづくり		
	2021年度取組		
	①多問題を抱える世帯に分野を超えて対応できるよう、地域ケア会議を活用する。鶴川第1 高齢者支援センターと協働し、鶴川圏域内の他分野福祉関係機関と更なる関係強化を行い、圏域内の 8050 問題等の課題の共有をはかる。 ②8050 問題等の地域課題を共有する事で、地域で必要な多分野協働での支援体制の構築を図る。		
	活動指標		
	①鶴川圏域内の福祉関連機関との連携会議の開催 ②鶴川地区社会福祉協議会主催している高齢・障がい・子どもなど多分野の支援団体が集まる福祉情報交換会への参加		
	目標値	①連携会議の開催 年 1 回以上 ②年 12 回参加	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名②		多世代交流ができる場づくり	
計 画	目標		
	子育て世代との交流、他の年代へのアプローチができるグループ作り 多世代で見守り、支えあえる関係性づくり		
	2021年度の取組		
	・鶴川地区協議会で毎月第3水曜日にポプリホールで開催している3水スマイルラウンジでの鶴川子育て相談センターと高齢者支援センター合同イベント(2～3回/年)の継続。 ・2020 年度中止、延期となった地域介護予防教室を開催し、読み聞かせの自主グループを立ち上げる。 ・自主グループ立ち上げ後、グループの活動の場になりうる施設の発掘、協力依頼 ・多世代交流につながる自主グループに向けて見守り普及啓発講座を開催し、子どもから高齢者まで互いに見守りあえる関係性づくりの意識付けを行う。		
	活動指標		
	①多世代交流が期待できる自主グループの立ち上げ ②見守りへの意識づくりのための見守り普及啓発講座の開催		
	目標値	①読み聞かせ自主グループ立ち上げ 1ヶ所 ②自主グループへの見守り普及啓発講座 1回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③		三輪地区での支え合い連絡会の開催	
計 画	目標		
	三輪地区における既存のグループ活動の把握と支え合いの仕組みづくり		
	2021年度取組		
	①三輪地区内で行われている交流の場と自主活動団体を把握し、センターとの関係づくりを行う		
	②町内会自治会、老人会、民生児童委員、介護保険サービス事業所、自主活動グループ等に地域の現状を伝え、地域の見守りや認知症への理解を高める為、支え合い連絡会を開催する。		
	活動指標		
	①支え合い連絡会の開催数 ②自主活動グループ(町トレ2か所、体操1か所)への訪問数		
	目標値	①年1回以上 ②各グループ年1回以上	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数(企画会を除く)	6	回
検討する課題(決まっている場合のみ)		
複数ある場合は、箇条書きで記載してください。		

4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2021年度町田第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の長期化・地域活動の縮小により、これまでの地縁やネットワークが脆弱化している。そのことにより地域全体で対人コミュニケーションが図りにくい状況となり独居高齢者が孤立するリスクがある。特に見守り未実施の地区でまだ介護サービスに繋がっていない方等に対するアウトリーチ強化が必要である

【現状と課題②】

新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の長期化・地域活動の縮小によりフレイルの進行が懸念される。外に出て地域活動へ参加することや各講座等へ繋ぐという従来の手法では高齢者の運動機会を維持することが難しい。高齢者自らフレイル予防に取り組めるよう意識高揚を図り、自宅で出来る・一人でもできる取り組みを紹介することが必要である。ネット環境が整わない高齢者に届く情報提供が求められる。

【現状と課題③】

地域ケア個別会議において、中町 1,2 丁目に通いの場が少ないことが地域課題として挙げられた。駅近く、様々な規模のマンション・サ高住がある 1 丁目と戸建て住宅が多い 2 丁目は町内会・老人会を同じくする地域であり、この地域のニーズ把握と社会資源開発の可能性について検討が必要である

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		重点地区に対するアウトリーチを強化する
計 画	目標	重点地区を設置し、アウトリーチを強化する。実態を把握し地域への働きかけに生かす。効果的なアウトリーチを行う
	2021年度の取組	
	【重点地区設定】	原町田 2 丁目…町内会老人会にて見守りを実施したい希望があるが、構築に至っていない。老人会活動が低迷しているという相談も入っている。町内会自治会が 4 つに分かれており特性を把握しづらいことから、2 丁目全体の実態把握を行い、地域での話し合いに繋げる
		新日東自治会…住所地境界にあり、旭町 2 丁目であるか見守りを実施している旭町 2 丁目町内会とは分かれている。2020 年度相談が増加している。
		重点地区に対して、見守りデータを基に 75 歳以上・独居又は高齢世帯・介護介入がない世帯を地域訪問し実態把握を行う。
		・感染予防やフレイル予防(時期によっては熱中症予防)のリーフレットを配布する。 ・生活課題や見守り意識を聞き取る質問票を作成する
		【見守り支援ネットワーク】 定例会休止中のネットワークに対して再開支援を行う
	活動指標	
	対象地区対象者の全戸訪問(新日東64戸 原町田 2 丁目225戸)	
	目標値	対象地区対象者を 1 度は訪問する
実 績	実績値	
	2021年度の成果	
	(目標に対して、2021 年度にどこまで達成できたか、成果を記載して下さい。)	
	2022年度に向けた課題	
	(2021年度に成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

取組名②		介護予防の情報を高齢者に届くよう発信する	
計 画 (変 更 後)	目 標		
	『フレイル予防通信(仮)』の発行		
	2021年度の取組		
	○フレイル予防の重要性や取り組みのポイント、自宅で出来る体操等を紹介した『フレイル予防通信』を発行する。記事作成にあたっては地域の専門職の協力を仰ぐ。作成したお便りを活動中止中のグループメンバーへの配布、デイサービスを休んでいる要支援高齢者へ配布、アウトリーチ訪問での配布を行う。		
	○休止中グループへの再開支援を行う		
	活動指標		
	『フレイル予防通信(仮)』の発行・配布数		
	目標値	500 部配布	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	2022年度に向けた課題		

取組名③		中町 1.2 丁目の通いの場ニーズ調査を行う	
計 画 (変 更 後)	目 標		
	地域ケア個別会議で上がった中町1, 2丁目に通いの場が少ないという課題に対して 実態を把握し、該当地区に住む高齢者のニーズ調査を行う		
	2021年度の取組		
	○中町 1,2 丁目の町内会(中町中央町内会)と老人会(万葉会)に対するニーズ調査 を行う。エリア内にあるサ高住 2 か所にも通いの場のニーズがあるか? 活用できるス ペースがあるかを調査する。 ○中町 1,2 ラジオ体操拠点の活動状況とニーズを満たしているかを確認する ○把握したニーズに応じた働きかけを行う。		
	活動指標		
	対象地区の町内会・老人会・サ高住へのアプローチを行う 今後の取り組みを話し合う支えあい連絡会の開催		
	目標値	支えあい連絡会の開催 1 回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	2022年度に向けた課題		

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数(企画会を除く)	2回
検討する課題(決まっている場合のみ)	
○医療介護連携を通したフレイル予防の取り組み ○8050 問題について関係機関との連携会議	

4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2021年度町田第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

本町田地域には17地区からなる本町田町内会があり、町内会に所属していない自治会や地域に関しては高齢者支援センターの窓口認知度が低い傾向が伺える。宅地開発が特に進んだ30～40年前から住んでいる世代が転居や死去で離れた家には新たに宅地開発が進み若い世代が移り住む新興住宅地も近年増え始めてきたが、一方で高齢化は32%を超え年々右肩上がりの現状がある。地域に根付いた高齢者の相談窓口になることが地域に対して取り組むべき課題であると捉えている。(本町田地区全域の課題且つ、未開拓地域における課題)

【現状と課題②】

本町田地域には医療施設が少ない。また、町田市関係課や町田市の医療職団体で行う研修会は中央地区での開催が多いことから、本町田地区からはバスに乗り継ぎ出かけていかなければならず、参加する地域住民が少ない傾向がある。そのため、地域の医療機関の専門科などの情報や医療に関する知識を得にくく、身近に情報を得る機会が少ないことが課題である。

また、センターでは介護に困っている家族介護者からの相談を受けることが多く、情報不足により課題を抱えているケースが見受けられることから、家族介護者に対して、医療や介護の情報を周知していく必要がある。

(本町田地区全域)

【現状と課題③】

障害者手帳の交付率は年々増えている現状があり。障がいサービスを利用し生活している地域住民が65歳を区切りに介護保険制度におけるサービスに切り替えていくことになることについて相談・不満の声も多く聞かれている。介護保険に基づく支援者・関係機関も他法・他制度に関して知識や経験が不足している現状もある。高齢者を支える支援者・関係機関について、障がいサービス関係機関との連携体制と専門機関同士の知識・経験不足が課題。(本町田地区全域)

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		地域アセスメント及びフレイル予防事業の実施
計 画	目標	
		センターとの関わりが希薄な地域に対して、「介護予防の実践」を地域に定着させること。そのプロセスを通してセンターの周知とさりげない地域の見守りの充実を図る。
	2021年度取組	
		- 重点地域 今井地区 について以下の取り組みを行う。 (松が丘自治会及びみはらしの丘自治会周辺地域) - 自治会長に対して広報誌をツールに訪問し、顔の見える関係づくりを図る。 - 自治会に対してアンケートを実施し、住民の声の収集を図る。 - フレイルチェック会、介護予防地域型イベントをそれぞれ開催する。 - 地域ニーズに合わせて自主グループの立ち上げ支援を行う。 - 実態把握訪問の実施。 上記取り組みを通して地域アセスメントを進めるとともに、地域住民へのセンターの周知、閉じこもり高齢者との減少、フレイル予防の促進を図ります。
	活動指標	
		- 自治会長や地域のキーパーソンとの打ち合わせや会議の回数 - 介護予防事業の実施数 - フレイルチェック会、介護予防地域型イベント参加者数
	目標値	年 4 回以上、3 事業、延べ 45 名
	実績値	
実 績	2021年度成果	
		(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2022年度に向けた課題	
		(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

取組名②		家族介護者教室等や広報誌の配布を通じた医療・介護情報の周知		
計 画	目標			
	地域住民や家族介護者の方に介護や医療を身近に感じてもらうこと、医療情報が得やすい環境づくりを進める。			
	2021年度の実施			
	・広報誌の配布を通じ、医療と介護の相談先として「高齢者支援センター」を周知する。 ・介護や医療の相談に対応できるよう2職種以上の職員で家族介護者交流会に携わっていく。また、交流会の参加者に、どんなことが知りたいか、どんなことに困っているか意見を聞き取り、その意見を家族介護者教室の内容に反映させていく。 ・家族介護者教室では、ニーズに応じて外部講師と連携し、医療と介護の情報発信を行っていく。			
	活動指標			
	・広報誌発行部数 ・家族介護者交流会及び介護者教室の開催数 ・参加者アンケートの満足度			
	目標値	・100部	・年6回	・6割以上が満足と回答
	実績値			
実 績	2021年度の成果			
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)			
	2022年度に向けた課題			
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

取組名③		専門職向け多職種協働勉強会の開催	
計 画	目標		
	65歳になる障害者の方の現状把握と他制度に跨る関係機関のネットワーク構築及び個別支援力(ケアマネジメント力等)の向上を図る。		
	2021年度 of 取組		
	障害福祉サービスから介護保険制度に移行する際の本人への説明や準備不足が多いといった2020年度に抽出された課題に対応して、以下の取組を行う。 ・介護保険関連の専門機関、障がい福祉サービス関連の専門機関などによる多職種協働勉強会の実施。 ・下記団体等とのネットワーク構築(強化)を重点的に図る。 町田地域障がい者支援センター 居宅介護支援事業所(介護支援専門員) 訪問介護事業所(障がいサービス・介護保険サービスともに利用できる事業所) ・上記取り組みを通して切れ目のない介護サービスの提供を図る。		
	活動指標		
	・開催数 ・総参加者数		
	目標値	・2回 延べ40名	
	実績値		
実 績	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数(企画会を除く)	2回
検討する課題(決まっている場合のみ)	
複数ある場合は、箇条書きで記載してください。 ・センター単独地域ケア推進会議「65歳になる障害者の制度移行支援を考える(仮)」 ・町田圏域地域ケア推進会議「未定」	

4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2021年度町田第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

玉川学園・東玉川学園地区において、独居高齢者や高齢者世帯の増加と共に、これまで地域活動を行ってくれていた住民も高齢化し、町内会加入世帯率は50%を切り、地域活動をする人材が不足している状態です。地域づくりをするための若い世代を取り込めていないことが課題となっています。

また、南大谷地区は比較的若い世帯が増えている地区ですが、一区画が売りに出されると、その区画に十数件の戸建てが建ち、新しい住民が一举に増える状況です。

新たな転居者と従来から住んでいる住民の交流が希薄なことが課題となっています。

【現状と課題②】

現在町トレは18ヶ所、約470名が参加しています。「町トレ支え合い連絡会」にて「会場が確保できずグループを立ち上げることができない。」との意見が上がっています。

特に玉川学園7丁目8丁目・東玉川学園地区においては、こすもす会館1ヶ所に活動会場が限定されており、坂の途中に立地していることから、参加を断念する高齢者がいるのが現状です。徒歩圏内にフレイル予防や交流のための集いの場が少ないことが課題となっています。

【現状と課題③】

認知症高齢者を支える家族が、共依存や引きこもり・精神疾患をもっているなどの状況にあるケースが増えています。介護保険制度を利用している場合でも、日々の介護の中で暴言・暴力、不適切介護、ネグレクト等の虐待事案に発展する危険性を常にはらんだ状況にあります。また家族自身が介護保険の利用を拒否するケースもあり、支援センターが定期的に連絡を入れて状況確認等を行っています。支援センターでは認知症サポーター養成講座の開催に加えて、認知症のさらなる理解を深めるために啓発講座を年1回開催していますが、認知症サポーターの活用までには至っていないのが現状です。地域住民を含めた関係機関との情報共有が不十分なために、認知症の人を早期発見及び支援する機会を損失していることが課題となっています。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		若い世代が参加できる地域ケア会議等を増やし、繋がりを強化する。			
計 画	目標				
	若い世代と繋がりを持ち、見守りや地域活動の担い手として活躍できる人材を増やす。				
	2021年度の取組				
	・新型コロナ感染拡大のため中止となった 2020 年度「防災」をテーマとした南大谷地区の地域ケア推進会議を開催する。開催にあたっては南大谷町内会と町田第 3 高齢者支援センター共催とし、民生児童委員等の協力を得て実施する。 大規模集会は避け、町内会自治会の班を単位とした少人数開催とする。災害弱者に対しては、個別地域ケア推進会議も視野に入れながら、災害時の協力者を募り、地域ケア推進会議を通じて、地域の人材発掘、多世代の繋がりを強化していく。				
	活動指標				
実 績	南大谷地区地域ケア推進会議開催のための打合せ会議数と地域ケア推進会議開催数。				
	目標値	打合せ会議 2 回 地域ケア推進会議 2 回			
	実績値				
	2021年度の成果				
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)				
	2022年度に向けた課題				
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)				

取組名②		空きスペース等を活用し、新たな集いの場と参加者の開拓を行う。	
計 画	目 標		
	高齢者にとって外に出かける事に意義があることを周知し、歩いて通える集いの場を増やすことで、フレイルを予防し、近隣との繋がりを保つことができる。		
	2021年度の取組		
	・フレイル予防のための集いの場として、玉川学園商店街エリアに町トレグループを立ち上げる。 ・新型コロナ感染拡大のため中断していた 2020 年度「お庭カフェ」の企画は、お庭提供可能者自身がおもてなしをする企画と勘違いされていることが判明したため、「ご近所さん会❀お庭カフェ」と名称を変更した。 玉川学園町内会・玉川学園地区社会福祉協議会・まちづくりの会・町田第3 高齢者支援センターが協力して実行委員会を設立し、コミュニティセンターオープンイベント等にて地域の繋がりをテーマに地域住民への居場所づくりのための周知活動を行う。		
	活動指標		
	・新規町トレグループを立ち上げる。 ・地域の居場所づくりを目的に、コミュニティセンターオープンイベント等にて「ご近所さん会❀お庭カフェ」の周知活動を行う。		
	目標値	町トレグループ新規立ち上げ 1 ヶ所 「ご近所さん会❀お庭カフェ」チラシ配布数 500 枚	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③		認知症の人を早期発見及び支援するため、支援者を養成する。	
計 画	目標	地域の社会資源とのネットワークを構築して、認知症の人を適切な支援に繋げる。	
	2021年度の取組		
	・玉川学園2丁目で1回、7丁目で1回、あんしん連絡員の活動内容の再確認を含む継続支援を行う。 あんしん連絡員ブロック会議と地域ケア推進会議をセット開催し、見守り活動の周知やネットワークの強化を図る。 ・玉川学園商店街にて新たな見守り協力事業所の登録を依頼し、ネットワーク作りを行い、認知症の人の早期発見及び支援に繋げる。 ・認知症の理解を進めるために「当事者が望むサポート」に重点をおいたサポーター養成講座やファイト講座を開催し、地域の中で当事者を支える土壌づくりを行う。		
	活動指標		
	・玉川学園地区 あんしん連絡員ブロック会の開催数。 ・新たな見守り登録事業所の数 ・認知症サポーター養成講座・ファイト講座の開催数		
	目標値	・あんしん連絡員見守りブロック 2回 ・新規見守り登録事業所 2ヵ所 ・認知症サポーター養成講座 2回 ファイト講座 1回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
2022年度に向けた課題			
(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数(企画会を除く)	南大谷地区2回 玉川学園地区2回
検討する課題(決まっている場合のみ)	
・南大谷地区 「防災」をテーマに風水害・土砂災害のリスクの大会地区から2回開催予定。 ・玉川学園2丁目で1回、7丁目で1回あんしん連絡員の活動内容の再確認を含む見守り交流会と地域ケア推進会議を開催予定。	

4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2021年度南第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】地域の認知症への理解を深め、当事者・家族の支援充実に繋げる

認知症の相談は例年増加傾向にあるが、感染症流行に伴う外出自粛が長期化することにより、今後更に、早期発見・早期支援が遅れる可能性がある。今後はコロナ禍でも認知症の講座に参加ができるよう、認知症支援の普及啓発の手法について創意工夫を行っていく必要がある。また、多世代の住民が関心を持てるような工夫を行うことで、高齢者になる前から認知症や周辺症状について理解を深める機会になると考える。そのため、多世代の住民が集まりやすい南町田グランベリーパークや鶴間公園等を活用し、認知症サポーターや当事者に企画段階から参画してもらい、様々な世代の住民が自分事として認知症について考えてもらう機会を作る必要がある。

【現状と課題②】地域での暮らしを支える介護予防の普及啓発

・南第1の担当地域では JAGES 調査により、スポーツ参加率が 36.1%と高いことが示されていたが、昨年度、272 件の戸別訪問による住民アンケート結果によると、コロナ禍での外出自粛により、気力低下・鬱傾向が見られたことや下肢筋力の低下を懸念しているとの声が多く、イベントに参加した方からも、外出しなくなって歩くのが遅くなったとの声が多数挙がっている。今後も感染症流行の長期化が予想されるため、更なる心身機能の低下が懸念される。そのため、医療機関との連携も図りながら、コロナ禍でもできる健康増進の取り組みを進めていく必要がある。一方で JAGES 調査では、「学びたい」との意欲の高い住民層が示されており、新しい生活様式を踏まえて、フレイル予防・下肢筋力低下予防に取り組むことが、介護予防の普及啓発が進む一因となる可能性がある。

【現状と課題③】地域ネットワークの充実

・戸別訪問による住民アンケートからは、介護予防の他、特殊詐欺・消費者詐欺に関する相談を望む声や経験談なども多く聞かれた。また、担当エリア内では孤独死が発生しており、地域の見守りの目を増やせるよう、引き続き地域活動をしている自主グループを中心に働きかけを行っていく必要がある。また、介護の専門職からは虐待・ヒヤリハット報告も増加傾向にある。さらには、コロナ禍のため地域で集う場が減り、交流の機会が持てないという課題が生じている。そのような状況において、個々での見守りの視点も重要となってきた。そのため、今後長期化が予想されるコロナ禍において、新たな交流の機会、地域とのつながりが重要となる。また、今後、オンラインなども活用しながら、感染症対策に留意した連携の形を構築した上で、医療・介護の連携をすすめていく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		地域の認知症への理解を深め、当事者・家族の支援充実に繋げる
計 画	目標	
	コロナ禍のため、地域に向けて様々な手法で認知症への正しい理解につながる取組を行うとともに、ワンストップの相談窓口としての周知を図ることで、認知症初期段階からの支援に繋げる。	
	2021年度の取組	
	・鶴間・南町田の重点地区を中心として出張相談会を実施し、相談窓口としての周知を行うことで、認知症初期段階での早期発見・支援につなげる。 ・地域ケア個別会議により課題を把握し、個々の状態に応じた支援チームを作る。 ・多世代の住民が集まりやすい南町田グランベリーパークや鶴間公園を活用し、認知症当事者を含む地域住民主催の読書会やオンラインなど新しい手法も導入しながら、アクティブシニア・働く世代などに向けた認知症関連の講座やイベントを実施する。その都度アンケートなどを行い、今後の活動に活かしていく。 ・家族介護者交流会でニーズを拾いながら、認知症への正しい理解につながる講座を開催する。	
	活動指標	
	① 重点地区を中心とした出張相談会の開催数 ② 認知症に関する地域ケア個別会議の開催数 ③ 認知症当事者を含む読書会の企画会議数及び実施開催数	
	目標値	①2回 ②10回 ③4回
	実績値	
実 績	2021年度の成果	
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2022年度に向けた課題	
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

取組名②		地域での暮らしを支える介護予防の普及啓発	
計 画	目標		
	コロナ禍による気力・体力の低下から脱却をすすめていくために、重点地域を中心に感染予防を意識した屋外での活動、介護予防の普及啓発を進める。		
	2021年度の取組		
	・鶴間会館、鶴間公園を利用して屋外での介護予防普及啓発講座を実施する。 ・介護予防普及啓発講座開催に合わせて実施地域の戸別訪問を行い、住民の介護予防への取り組みの効果を図る。併せて新たな担い手であるオンラインサポーターの育成、介護予防サポーターの発掘を目指す。 ・南町田グランベリーパーク・鶴間公園と共同してウォークラリーの実施など、住民の興味関心の持てる介護予防のイベントを実施する。 ・近隣の病院と協働し、コロナ禍でもできるフレイルや転倒予防など地域に向けた取り組みを実施する。 ・出張相談会や戸別訪問ではフレイル予防のチラシを配布し、周知を図る。		
	活動指標		
	① 自主グループの立ち上げ数 ③ 介護予防啓発イベントの実施数		
	目標値	① 2グループ ② 2回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③		地域ネットワークの充実	
計 画	目標		
	感染症対策の為、新たなコミュニケーションの手法を取り入れることで、交流の場を創出し、住み慣れた地域で安心して生活できる地域ネットワークの充実を図る。		
	2021年度の取組		
	・支援センターの窓口について周知度の低い鶴間 5～7 丁目や見守りの目が少ない地域に戸別訪問を実施し、住民ニーズの把握に努め、支援センターへの相談件数を増やす。 ・住民や関係機関へ虐待早期発見のための普及啓発と相談窓口の周知をする。 ・オンラインのサポートなどが行える地域住民を育成し、その協力のもと地域介護予防教室を実施して、オンラインを活用した交流の場をつくる。 ・地域介護予防教室を実施し、新規自主グループと既存の自主グループに対して見守りミニ講座を開催し、あんしん連絡員協力員の新規会員を増やす。 ・特殊詐欺・消費者詐欺防止等の普及啓発の講座やチラシ配布を住民向けに実施する。		
	活動指標		
	①オンラインのサポーター養成講座の参加者数 ②見守りミニ講座・普及啓発講座の実施回数		
	目標値	① 3回 ② 5人	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数(企画会を除く)	3 回
検討する課題(決まっている場合のみ)	
・コロナ禍での課題や取組を見定め、感染症に強い地域をつくる ・虐待防止・ヒヤリハット報告をテーマとした地域ケア会議 ・意思決定支援をテーマとした法律専門家による地域ケア会議	

4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2021年度南第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

コロナ禍により、町トレなどの自主グループ活動が行えない状況となり、閉じこもりの高齢者やフレイルの急激な進行がみられている(全域)

コロナ禍における新しい生活様式が必要と言われているが具体的にどのような事を行えばよいか、地域と情報を共有しながら検討していく必要がある。

グループ活動再開に向けた支援が必要となっており、町トレや自主グループなどの活動について、少人数での集まりとするなどコロナ禍で行える活動内容について検討していく必要がある。

【現状と課題②】

地域内では西田団地地域と金森1丁目の高齢化率が高い。相談が入る時には深刻な状況になっていることが多く、早期発見ができていない場合がある。自主グループ活動などでつながっている住民もいるが、活動に参加していない大多数の住民とのつながりの構築が必要である。

ネットワーク構築が進んでいない地域に対して、個別訪問と自治会長との話し合いによるアプローチを続けているが、昨年はコロナ禍にて繋がり構築が不十分となっている。

【現状と課題③】

公営住宅も多く、独居・高齢者のみの世帯だけでなく、障がい者を抱える世帯や、ひきこもりの子どもを抱える高齢者も増えている。虐待ケースの発見や、症状悪化での支援開始となるケースが多く、日頃からの見守り体制の構築や、虐待防止・早期発見に繋がる取組が必要である。担当エリアは、他エリアと比べて虐待対応の件数・権利擁護支援の件数が多い。2020年度に障がい者支援センターやケアマネジャーと地域ケア推進会議で検討を行い、他関係機関との連携の必要性を感じている。支援対象者の現状を把握するにあたって必要とされる視点を確認するとともに、連携体制づくりに取り組む必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		コロナ禍における新しい生活様式の活動支援	
計 画	目標		
	新しい生活様式を取り入れ、閉じこもりやフレイル予防を推進する。		
	2021年度の取組		
	・地域の喫茶店などを活用しての少人数での気軽な集いの場作りを支援する。 ・見守り訪問や自主グループ、自治会・老人会活動の現状確認を定期的に行って情報収集するとともに、支援センター内で共有して支援継続を行う。 ・専門職間での連携を図り、感染症発生時の対応力向上に向けた地域づくりを行う（地域ケア推進会議での共有と検討実施）。 ・南第2高齢者支援センターの取組・活動の周知を行い、認知度を上げる。 ・スマホ教室開催にて、インターネットで防災などの情報収集やオンライン会議・講座への参加ができることができるように支援を行う。		
	活動指標		
	①少人数での集いの場活動支援数 ②見守り訪問戸別数 ③圏域での感染症に対する情報共有と対策検討の地域ケア推進会議開催数		
	目標値	① 2箇所 ②月50件 ③1回	
	実績値		
実 績	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名②		ネットワーク構築	
計 画	目標		
	ネットワークが十分ではない地域を中心に、認知症サポーター養成講座やフレイル予防をきっかけとしてネットワークを構築し、見守り体制を継続する。		
	2021年度取組		
	・介護予防普及啓発講座など各種講座・イベントの開催にて、コロナの影響による介護予防の視点について学ぶ機会を作る。		
	・これらを元に、自治会などでできることの話合いの場を設けていただき、連携を図る。介護予防の取り組みができる通いの場づくりを支援することで、関わりの薄い地域とのネットワーク構築につなげる。		
	・2020年度に立ち上がった金森第11都営の見守りネットワークを継続して頂くために、見守りの視点の発信や見守り協力員を増やせるよう支援を実施する。また既存の見守りネットワークも継続していく。見守り合う視点の周知や自主性を尊重しての見守り活動支援を実施する。お互いに見守り合う意識を支援して、見守りをしてくださる方を増やす。見守りの必要性などを記載した広報誌やチラシ配布など行う。		
	活動指標		
	①認知症サポーター養成講座・介護予防普及啓発講座・見守り普及啓発講座の各開催数		
実 績	②自治会・老人会・自主グループとの話合いの回数		
	③見守りの必要性を記載した広報誌発行数		
	目標値	① 3・2・2回 ②3回	
		③見守りの必要性を記載した広報誌発行数4回	
	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
績	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③		8050 など多世代問題への対応力強化	
計 画	目標		
	8050 問題などの複合的な問題について、円滑に支援できるよう、民生委員、障がい者支援センター、子ども相談センター、保健所、社協、地域との連携体制を構築する。		
	2021年度取組		
	・南地区協議会とも連携し、高齢・障がい・子どもの専門職が集まっのての情報交換や連携体制に関する定例会を開催し、課題抽出・事例検討を行う。 ・障がい者支援センター、保健所、圏域のケアマネジャーなどの関係機関を交えての地域ケア推進会議を開催し、圏域のケアマネジャーがどのような時に連携が必要かの気づきの視点などについて学ぶ。 ・圏域のケアマネジャー向けに権利擁護の勉強会を開催し、虐待ヒヤリハットの提出など、発見時にすぐに連絡が入る体制を強化する。		
	活動指標		
	①専門職(民生委員、障がい者支援センター、子ども相談センター、社協)との定例会での検討回数 ②地域ケア推進会議の開催数 ③権利擁護の勉強会の開催数		
	目標値	① 10回 ②1回 ③1回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
			(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数(企画会を除く)	4 回
検討する課題(決まっている場合のみ)	
複数ある場合は、箇条書きで記載してください。 ・新型コロナウイルスに対する情報共有と対策について ・8050問題への取組 ・権利擁護 ・自立支援	

4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2021年度南第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 成瀬町内会エリア

成瀬町内会エリアは成瀬2丁目から8丁目までと広域で、独立した自治会が飛び地的にある。昔から住んでいる住民と宅地開発で転入した若い層の住民が混在していて、高齢化率は21%と町田市の平均より低い。支援センターへの総合相談件数は他の地域より少ない傾向にあり、支援センターの周知が足りていないこと、地域課題が把握出来ていないことから、昨年度より重点地域として取り組んでいる。ただ、コロナ禍により計画通りに地域への働きかけが出来なかったことから今年度も継続とする。閉館になりそうだった成瀬会館は、ゼルビアスポーツクラブが借りることで運営を継続し、地域の拠点として現在は子供の学習・スポーツ等の教室や、高齢者対象の体操教室などを実施しており、今後の連携が期待できる。

【現状と課題②】 成瀬・成瀬台(成瀬台自治会連合会)エリア

昭和40年代後半から開発された戸建て住宅のエリアで高齢化が進んでおり、特に成瀬台3丁目は45%を超え、その中でも後期高齢者の割合が7割に達しているため、相談件数が非常に多いエリアである。最寄り駅からバス利用の為、通勤に不便で子供世帯との同居率が低く、高齢者のみや一人暮らしの世帯が多く、認知症や老々介護など多くの問題が出てきている。家族や他者に迷惑をかけたくないという意識を持つ住民が多いため、問題が起こっても相談をせずに抱え込んでしまい、地域で孤立する高齢者が多いことから、支え合って暮らしていくことが出来る共生の地域づくりが求められている。課題解決の為、2019年11月に地域住民が主体となって「高齢者共生セミナー実行委員会」が立ち上がった。コロナによって当初の計画通りに活動が進まない一方で、新たな取り組みを考えるきっかけとなっている。

【現状と課題③】 全域(介護予防・フレイル予防の観点から)

現状:2020年度はコロナ禍により活動自粛を余儀なくされ、フレイル状態にある高齢者が増加傾向にある。情報交換の新しい提案としてオンライン交流会を開催してきたが、ハード面・ソフト面でのハードルが高く、情報の共有や交流を必要としている多くの高齢者に対して波及していない。また、地域には様々な経験・能力・意欲を持った人や活用出来る場所が多くあるが、必要としている人と結びついていない現状にある。

課題:コロナ禍でも活動することができる介護予防活動の場づくりが求められている。高齢者へのオンライン波及に当たってはオンラインサポーターを育成し、活動の拠点を増やすことで、ハード・ソフト面でも参加できる環境を整える事が出来る。地域資源、ニーズの結びつけには地域の掲示板を活用し、住民同士での支えあいの気持ちを築いていく。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		成瀬町内会エリアの地域課題を住民と一緒に探る取り組み	
計 画	目標		
	地域支え合い連絡会を開催し地域課題を把握する。		
	2021年度の取組		
	・町内会や地域の商店、企業、様々な活動団体に向けて支援センターの周知と地域の困り事の聞き取りを行い、支え合い連絡会への参加を働きかける。支え合い連絡会は、高齢者のみではなく多世代に参加してもらうことでそれぞれの視点の課題を抽出し、解決へ向けた取り組みに活かせるようネットワーク化を図る。 ・ゼルビアスポーツと連携し、成瀬会館の集い場としての活用や高齢者と子供(親世代)をつなぐ活動・イベント等互いの強みを活かした取り組みを検討する。		
	活動指標		
	① 支え合い連絡会の開催回数 ② ゼルビアとの協働回数		
	目標値	① 1回 ② 1回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名②		高齢者共生セミナー実行委員会の助け合いの地域づくりへの協力	
計 画	目標		
	実行委員会主催の、認知症に関するセミナーや高齢者の様々なお役立ちセミナーなどの実施により、住民の協働への参加意欲が芽生えてくる。		
	2021年度を取組		
	共生に向けたセミナーの次の4つの取り組みへの協力 ・認知症サポーター養成講座の開催・当事者とのミーティングの調整 ・高齢者の孤立化防止に向けた、挨拶を交わす運動への協力（支援センターが地域の協力団体を紹介したり、地域連携への提案を行う） ・医療と介護の情報提供や支援センターの役割を情報提供（支援センターの取組内容を紹介するDVDも活用） ・「成瀬お助けたい」など、地域で日常生活を支援する団体に対して、協働の提案や連携		
	活動指標		
	① 認知症サポーター養成講座、当事者とのミーティング開催回数 ② 挨拶運動参加団体の紹介件数 ③ セミナーの広報誌「共生のまち」への情報提供・紙面協力回数 ④ 生活支援団体との連携のための団体代表との会合数		
	目標値	① 認知症サポーター養成講座 2 回、 当事者ミーティング 1 回 ② 1 か所 ③ 4 回 ④ 1 回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	（目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。）		
	2022年度に向けた課題		
績	（2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。）		

取組名③		全域でコロナ禍でも取り組める介護予防・フレイル予防の取り組み	
計 画	目標		
	① コロナによって活動が出来ず、フレイル状態に陥っている高齢者に対して屋外でも取り組むことができる集いの場を作る。 ② 介護予防の為にオンラインによる交流・活動の場の創出。 ③ 地域の掲示板の活用により、情報交換と、スキル等の結び付けを行う。		
	2021年度の取組		
	・ コロナ禍でも可能な自主グループを立ち上げ、フレイル状態にある高齢者に対し介護予防活動の場を作り出していく。 ・ オンライン交流会を定期的に行い、オンラインサポーターの育成を行う。オンライン環境が整わない参加希望者に対しても少人数で参加できるよう地域の活動の拠点を作り、情報交換が出来るよう環境を整備していく。 ・ 地域の方々の掲示板を活用し住民ニーズとスキル等のマッチングをおこなう。		
	活動指標		
	① コロナ禍でも出来る活動の場づくり ② オンライン交流会の実施 ③ マッチング登録数		
	目標値	① 1回 ②月1回 ③8回	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数(企画会を除く)	2 回
検討する課題(決まっている場合のみ)	
複数ある場合は、箇条書きで記載してください。 ・「コロナに強い地域づくり」実現のための課題把握 ・個別ケースからみた共通課題 ①オートロックマンションにおける高齢者の孤立化 ②住み慣れた場所に元気で住み続けるために、今から備えておくべきこと ③医療・介護や集い場・生きがい活動など様々な社会資源と、住民同士の見守り活動	

4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2021年度医療と介護の連携支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 町田市の現状と課題

センターとして考える町田市における在宅医療・介護連携推進事業の現状と課題を記載してください。

【現状と課題①】

地域ケア会議の有効活用と他圏域への展開

現在、各圏域において医療と介護の連携をテーマに地域ケア会議が行われており、そのテーマについては各圏域の地域課題を取り上げ、解決を目指しているが、その取り組みの多くは事後の評価が行われておらず、成果を評価するには不十分な状況にある。

各圏域で行われる地域ケア推進会議の内容を精査・分析し、今後の地域課題の解決のために活用可能な手法を蓄積し、その手法を効果的に活用できるよう高齢者支援センターへの情報発信・支援が必要であると考えます。併せて高齢者支援センターが地域課題を定めたプロセスを共有するための聞き取りも必要である。

【現状と課題②】

医療・介護保険制度への理解の深化(医療と介護の連携協働に関する部分について)

2018年4月の医療・介護保険の同時改正にて、医療と介護の連携に関して新設や改正された項目があったが、その内容について現場レベルでの理解が不十分な状況にある。2020年には医療保険の改正がされており、地域包括ケアシステムの推進についてはより強化された内容が盛り込まれている。2021年4月に介護保険制度の改正があり更なる医療介護の連携を行う事は必須である。現場で実務を行う医療職や介護・福祉職へ対し医療介護保険制度の理解を促すことにより、医療と介護の連携協働を促進することが必要と考える。

【現状と課題③】

医療機関と連携協働を図れる体制の構築

医療と介護の連携支援センターの前身となる「医療と介護の連携センター」業務を3年間、医療と介護の連携支援センターになってから1年間業務を行ってきた中で、医療職(特にかかりつけ医)からの活用が少ない現状がある。そこで医療と介護の連携を促進する上で、在宅支援診療所を中心に市内にある約250か所の医療機関を回り、当センターの機能について説明を行い、医療機関と連携・協働を図れる体制を構築する必要があると考える。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		地域ケア推進会議の有効活用と他圏域への展開	
計 画	目標		
	地域ケア推進会議を通じ、地域ごとの課題を把握しその解決を目指していく。 その際、他圏域でも転用できる解決方法があれば当センターに手法を蓄積・分析を行い、他圏域にて同内容テーマで地域ケア会議を開催する際には情報提供や支援を行えるようにする。		
	2021年度の取組		
	各地域ケア個別会議・支援センター単位の地域ケア推進会議・圏域の地域ケア推進会議に出席し、各地域が持つ特性や現状の課題、それに対する取り組み（課題解決までにつながるプロセス）の把握を継続的に行う。 他圏域での地域ケア推進会議や町プロ協議会などで各取組の報告・紹介・周知を行う。 また、把握した各取り組み内容を当センター内に蓄積し、他圏域にも活用できるものかを検討を行うとともに、他圏域で活用を目指す際にはその圏域の地域資源を活用して実行できるように支援を行う。		
	活動指標		
	要請された地域ケア会議（推進会議・企画会議を含む）への出席割合		
	目標値	要請され開催された会議数 100%	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	（目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。）		
	2022年度に向けた課題		
	（2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。）		

取組名②		医療・介護保険制度への理解の深化	
計 画	目標		
	医療・介護保険制度下で業務に従事している職種が、医療保険や介護保険の保険制度（特に医療と介護の連携協働が必要な部分において）を理解することにより、医療と介護の連携を促進させる。		
	2021年度の取組		
	2020年度同様、医療・介護保険制度への理解を深めるため1つのテーマで3回のセミナーを開催する。本年も支援センター・居宅介護支援事業所を主の対象とするが、事業所種別・職種に関しては制限を行わず、受講者を募っていく。		
	2021年度は介護保険報酬改定も行われる予定であり、更なる医療介護連携協働を担う“居宅療養管理指導”に関わる部分を重点的なテーマとする。		
	また、新型コロナウイルス感染症への対策として、オンラインでの開催を検討する。その後配信も行い受講者の拡大を行う。		
	活動指標		
	セミナーの開催数、1回あたりの受講者数		
	目標値	3回(8月、10月、12月)、30名以上	
実 績	実績値		
	2021年度の成果		
	(目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2022年度に向けた課題		
	(2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③		医療機関と連携・協働を図れる体制の構築	
計 画	目標		
	医療機関への当センターの周知活動を行うとともに、市内各圏域の医療資源の把握、各医療機関と顔の見える関係を築くことにより連携・協働を図れる体制を構築する。		
	2021年度の実績		
	在宅支援診療所を中心に、市内にある約 250 か所の町田市医師会所属の医療機関に対し、当センターの機能について説明をし、各医療機関と顔の見える関係を構築する。新型コロナウイルス感染症への対策として、センターとして訪問を可能とする指標（国の示すステージ指標を基にステージ 1 の場合）を設定し、訪問先の医療機関に負担のないように配慮した上で訪問を行う。また、町田市医師会外の医療機関においても当センターの機能について説明を行う。		
	活動指標		
	市内医療機関、また必要に応じ他市の医療機関も含め、訪問による周知活動をした医療機関数。		
	目標値	町田市医師会所属の医療機関 80%以上	
実 績	実績値		
	2021年度の実績		
	（目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。）		
	2022年度に向けた課題		
	（2021年度の実績を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。）		

4 市のコメント

（今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。）
